
『剣より強いモノで...』

忍野八雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『剣より強いモノで…』

【Nコード】

N3338BA

【作者名】

忍野八雲

【あらすじ】

純愛モノれず。付き合ったことがない私がこんなの書くなんて滑稽よね。アーツハツハツハ。

one story

「最近思ってたんだ。俺お前のこと嫌いかも」

その先輩の言葉は私と先輩との間に壁を作った。

先輩と付き合って1年。

中学2年の私にとって初めての恋人となっている。正直出来過ぎてるなっと思った。だって、自分が憧れてる先輩がある日突然、私の前で付き合っただけで欲しいなんて言われたから。そんなある日。

急に言われたのだそんな、別れの言葉を。

その前に寒いギャグとか言ってたわけじゃない。まして、先輩が言っていたのでも……。

でも、なんか急に、まるで遮るかのよう、に。

しばらく、会ってないなあ。何日かなんて覚えてない。でも、会ってないのは確かだ。今、たぶん私は「嫌い」なんだろうなあ。先輩じゃなくて自分が。

初めての体験だから戸惑ってるんだと思う。

でもそれは言い訳そう、言い訳だ。

自分が何をしたいのか、自分が何をされたいのかなんてわからない。初めてだからじゃなくて、逃げてるから。

何度泣いたかわからない。何日学校をサボったかわからない……。何回先輩に会うチャンスを棒に振ったかわからない……。何回……

何回……。

一瞬だけ、そう一瞬だけ何も始まらなきゃ、何も知らなきゃ良かったって思ってしまった。

……気がついたら自分のことを傷つけていた。奇声を発したんだろう、腕を何か所も切ったんだろう。自分を幾度も罵倒したんだろう。傷つけていたことはわかるけど、何で？なんてことはわからないくらい、自分の中はグチャグチャになっていた。

一瞬でもそんなことを思った自分が憎い。そんなの漫画の中だけだと思ってた。小説に出てくる悲劇のヒロインだけだと思ってた。でも、そうなるとう自分はいつの間に悲劇のヒロイン気取りになっていたんだろう。

始まらなきゃよかった？

そしたら、あの幸せな時間はどこへ行くの？

知らなきゃよかった？

そしたら、私のこの無気力で幼稚でしようがなく誰かのためだと虚言を抜かしながら、実は自分のことだけだったっていう自分は？

そう思ったら、また、涙が出てきた。悲しかったのか、苦しかったのかわからない。だけど、その後はすっきりした。

さっきまで悩んでた自分を嘲笑ってしまうぐらいに。

そうだ、先輩に会いに行こう。

本当に嫌われてても振り向かせてやる。自分がどれほど悩んだか苦しんだか言ってしまうおう……。そして、謝ろうとしたら唇で抑えてしまおう……。それが、ファーストキスになるけど、それでも私は構わない。だって、あげるべき相手が見つかったから。

「……………くっさ」

自分の日記とはいえよくここまでクサイことが書けたな。……確かホントにあったことだけど。うう…書いてて体が火照ってきたよ。

ま、いいや。

とりあえず先輩にメールだ。待ち合わせ場所は、つと。

The other story

another story

「最近思ってたんだ。俺お前のこと嫌いかも」
俺は何言ってたんだ？何も分かってない癖に。
こんなこと言ったら傷付くに決まってる？それなのに……。

俺は何も言えないまま家に帰っていた。あいつとは付き合って一年になるが、いくら俺がバカとはいえこれほど馬鹿な事をしたと思える日はない。なぜあんなことを言ったかというと、

泣いた顔が見たかったから

正直フォロー入れて終わりにしようと思ってた。…でもまさか何も言わず走り去ってくとは。後悔先に立たずだっけか？

俺は中学3年になり、改めて実感した。

中学3年というのは後悔の年だ。スポーツで後悔し、文化祭で後悔し、今日も後悔して……。

たかが、あんなことのために、俺は自分の最愛としている女性を傷つけた。

その事実が、ぐさりと穴を作った。

次の日会おうと思ってあいつの教室に行ったが休んだらしい。

次の日も次の日も休んで、来たのが5日後だった。
でも、来てるのにすれ違ってしまふ。避けられてんのかなあ？
家に帰って俺はメールを送る。返事はどんなに待ってもナシ、どうも電源を切っているようだ。

『どうすればいいかわからないよな』

その一文をもう一人の俺が語りかけてくる。
理由を聞くと、

『おまえ、誰かを好きになって誰かと付き合うのなんて初めてだろ？』

俺は俺にム力ついた。それって単に逃げてるだけじゃねえか！
そう言うこと言ったら逃げれると思ってるのか！？

『さあ？そんなの知らねえよ。だって、お前が動いてないじゃないか』

その答えに絶句した。いや、絶句したというのは違っただろう。気付くと俺はグチャグチャになった自分の部屋にいた。机に置いてある本とか参考書とかを力任せに叩き落とし、どっかの角や壁に自分の頭を打ち付けていたんだろう。こびりつく血が生臭いかった。

……事実を知った時。

それが自分の予想を超えていれば超えているほど衝撃が大きく、それを受け流すために、破壊を望む。

そう、俺は思ってしまった。

スツキリはしたが、寂しかった。あいつがもっと恋しくなった。

いつもみたいに頭を撫でてやりたかった。あいつが俺のほうを振り返るところが見たくなった。

そして、俺は本当の意味で会おうと思った。心から向き合おうと思った。

そしたら頃合いを見計らったかのようにメールがきた。
差出人は……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3338ba/>

『剣より強いモノで...』

2012年1月8日18時51分発行